

SENKEN

2025年

(令和7年)

12月26日
金曜日

織研新聞

織研新聞社

発行所

〒103-0015 東京都中央区
日本橋箱崎町31-4

編集局

03・3664・2341

営業局

03・3639・8030

大阪支社

06・7639・0570

名古屋支社

052・231・2600

ご購入は ☎ 0120-559801

展示会カレンダー

原則、翌月1日付
無料で掲載いたします。展示会情報の入力は、
<https://senken.co.jp> から●お問合せ先
展示会カレンダーデスク
ten-cale@senken.co.jp

ハープ残渣で商品企画

実践女子大
大妻女子大
生活の木、豊島と連携

実践女子大学と大妻女子大学は今年、ハープやアロマ関連商品の企画・製造・販売を手掛ける生活の木の、専門商社の豊島と協業し、商品開発に取り組み産学連携プロジェクトを実施した。両校の3年生21人が横断型で4チームに分かれ、オンラインも活用して毎週、チーム別会議と全体

会議を開き、2カ月かけて製品を企画。コンテスト形式の最終報告会で発表を行い、ヘアクリップと手作りキーホルダーキットを提案したチームが最優秀賞に選ばれた。



両校の3年生21人が横断型で4チームに分かれ商品企画した

ら大妻女子大プロジェクトデザイン研究室など3校で、生活の木の協業を開始。3回目となる同社との協業に今回は豊島も加わり、実践から9人、大妻から12人が参加し、2社・2校で産学連携プロジェクトを行った。

今回のテーマは「マテリアルハープ、植物がつかなくデザインプロジェクト」。廃棄食材などを染料として再利用する「フードテキスタイル」を行う豊島が、生

活の木の生産工程で発生する製品基準に満たないハープの残渣で染色したテキスタイルを提供。9月下旬に初回の授業で両校が課題を提示し、学生は廃棄予定の素材の循環を目的に、10月からチーム別に提供素材の活用方法を考え、市場調査をもとに生活・服飾雑貨の商品を企画した。

最終報告会では、1班はハープの残渣で染めた便箋や繰り返し使えるレターポーチ、シーリングスタンプ

活の木の生産工程で発生する製品基準に満たないハープの残渣で染色したテキスタイルを提供。9月下旬に初回の授業で両校が課題を提示し、学生は廃棄予定の素材の循環を目的に、10月からチーム別に提供素材の活用方法を考え、市場調査をもとに生活・服飾雑貨の商品を企画した。

最終報告会では、1班はハープの残渣で染めた便箋や繰り返し使えるレターポーチ、シーリングスタンプ

シルなど、思いも伝わるレターセットを考案。2班は「人と人をつなぐギフト」として、残渣を使った樹脂やビーズ、提供素材のリボンを使い、ヘアクリップと自分で作るキーホルダーキットを提案。3班は残渣と土で堆肥から作るハープの菜園キットと、残渣について学ぶ布絵本のセット。4班は巾着やサウナマットカバー、残渣を使った砂時計やサシェのサウナセットを企画した。

コンテスト形式で審査を行ったのは初めて。生活の木の担当者は「廃棄物を価値ある商品に変えるという理念を深く理解し、すぐ商品化できそうで、魅力的な案が揃った。ギフトやサステイナブルなコンボストなど観点も様々で面白い」と講評し、普段使いしやすい2班の案を最優秀賞に出。担当教員も「期待以上の企画ばかりで、製品化につなげていきたい」と話した。